

アキギリ新品種「ミライイエロー」の育成	
【要約】アキギリ「ミライシリーズ」の新品種として「ミライイエロー」を育成した。花色はやや明るい黄色、草姿はコンパクトで花つきがよく、9月下旬から10月中旬頃に開花する。シリーズの花色バリエーション増加によって消費拡大が期待できる。	
中山間農業研究所 中津川支所	【連絡先】0573-72-2711

【背景・ねらい】

本県は全国有数の鉢花・花苗産地であるが、秋季の品目が少なく、加えて花きの流行は変遷が激しいため新品目・新品種の開発が求められている。このため、中山間地域の夏季冷涼な気候を活かすことができ、オリジナル性のある品目・品種の育成を目指し、当研究所では令和2年3月に日本初のアキギリの鉢花用品種として「ミライシリーズ」3品種（「ミライパープル」「ミライブルー」「ミライピンク」）を育成した。これら「ミライシリーズ」の消費拡大を図るためには、さらに花色バリエーションを増やす必要がある。

そこで、既存3品種とは異なる花色の新品種を育成する。

【成果の内容・特徴】

- 1 サルビア属キバナアキギリの自殖後代から、草姿がコンパクトで、花つきがよい系統を選抜し、「ミライイエロー」として令和4年3月に品種登録申請した（出願番号：第36083号、表1、図1）。
- 2 「ミライイエロー」は、花色はやや明るい黄色、草姿はコンパクトで花つきがよく、9月下旬から10月中旬頃に開花し、花き品目が少ない秋に出荷できる（表1、図1）。
- 3 耐寒性や病害虫に強く、管理も容易である。

【成果の活用・留意点】

- 1 本品種の生産は、県内限定とする。
- 2 本品種の導入によって「ミライシリーズ」の花色バリエーションが増え、既存品種との組合せ出荷によりシリーズの消費拡大が期待できる。
- 3 挿し芽によって容易に増殖できるが、7月以降に実施すると花序数や枝数、葉数が少なくなるため、6月までに実施する。株のボリュームを大きくしたい場合は挿し芽時期を早くする。
- 4 分枝が盛んであるため、無摘心でも株のボリュームを確保することができる。株のボリュームをより大きくしたい場合は摘心を1～2回程度実施する。ただし、8月以降に実施すると、花序数や枝数、葉数が少なくなる。
- 5 ハダニ類の定期的な防除を実施する。

【具体的データ】

表1 育成品種の特性（5号鉢）（令和3年）

品種名	開花期 ^z (月. 日)	草丈 (cm)	株幅 (cm)	花序長 (cm)	上唇弁色 ^y	下唇弁色
ミライイエロー	9.28	44.6	54.0	14.2	2204 (明橙黄)	2204 (明橙黄)
ミライパープル	9.28	68.5	63.7	18.2	2502 (黄白)	8907 (濃赤味紫)
ミライブルー	9.20	52.0	55.4	19.2	9201 (ピンク白)	8603 (浅紫)
ミライピンク	9.28	64.8	69.7	19.5	2502 (黄白)	8904 (鮮紫ピンク)

^z 開花期：品種内の小花が50%以上開花した日

挿し芽：4月30日、摘心：1回目：6月21日、2回目：7月9日

n=8（ミライパープル：4）

^y JHSカラーチャート番号



図1 「ミライイエロー」（5号鉢）（令和3年）

研究課題名：国際社会に向け「ぎふ」をアピールできる輸出向け新花き品目の育成（平成27年度～令和元年度）

中山間地域の新たな花きブランドの開発（令和2年度～令和6年度）

研究担当者：服部哲也・浅野正